

サウンドデザイン演習（女子美術大学）

【講義2】古代ギリシャの音楽 ～「幻の規範」または学問としての音楽～

講義担当： 石井 拓洋

ishii05042@venus.joshiabi.jp

2014

本日のポイント

理解したいこと

- musicの語源「ムーシケー」の、本来意味するところは？
- ピタゴラスやプラトンにとっての「音楽」とは？
- 古代ギリシャにおける音楽とは（その位置づけ）
- 当時の代表的な楽器とは？
- 楽譜が現存する人類最古の音楽とは？
- なぜ紀元後4C頃から1000年間西欧はギリシャを忘れたか？

1. 音楽の起源

人類初の音楽家(!?)

1. 音楽の起源

人類初の音楽家(!?)

- 「その弟はユバルといい、
 豎琴や笛を奏でる者すべての先祖となった」

～ 旧約聖書 創世記 第4章 21節 より

- 紀元前 3000年頃の人らしい!?
- アダムとエバの子孫らしい (8代あと)!?
- 「ノアの箱舟」 (前2800年頃) よりも前の人らしい!?

1. 音楽の起源

人類初の音楽家(!?)

(聖書の記述では)

アダム(享年930歳※) → カイン → エノク

→ イラド → メフヤエル → メトシャエル → レメク

→ **ユバル** (「竖琴や笛を奏でる者すべての先祖」、推定で紀元前3000年頃の人)

※ 旧約聖書 創世記 第5章5節より

※ この記述の真偽はともかく、このように、かなり古くから音楽は存在していたらしい

1. 音楽の起源

メロディの誕生

- 言語起源説：言語の自然な発語にともなう抑揚
- 感情起源説：感情的な叫び声（下降線）

→ 「旋律」へと発展した、との説が有力

- クルト・ザックス *Curt Sachs* 米・民族音楽学者による説

[片桐ら 1996: 8]

2. 古代ギリシャの音楽

(前700年頃～前30年頃)

“Music” の語源

2. 古代ギリシャの音楽

(前700年頃～前30年頃)

“Music” の語源

- 「ムーシケー」 mousike (ギリシャ語)
- 本来は「詩」・「音楽」・「舞踊」が統合した形を指す語。



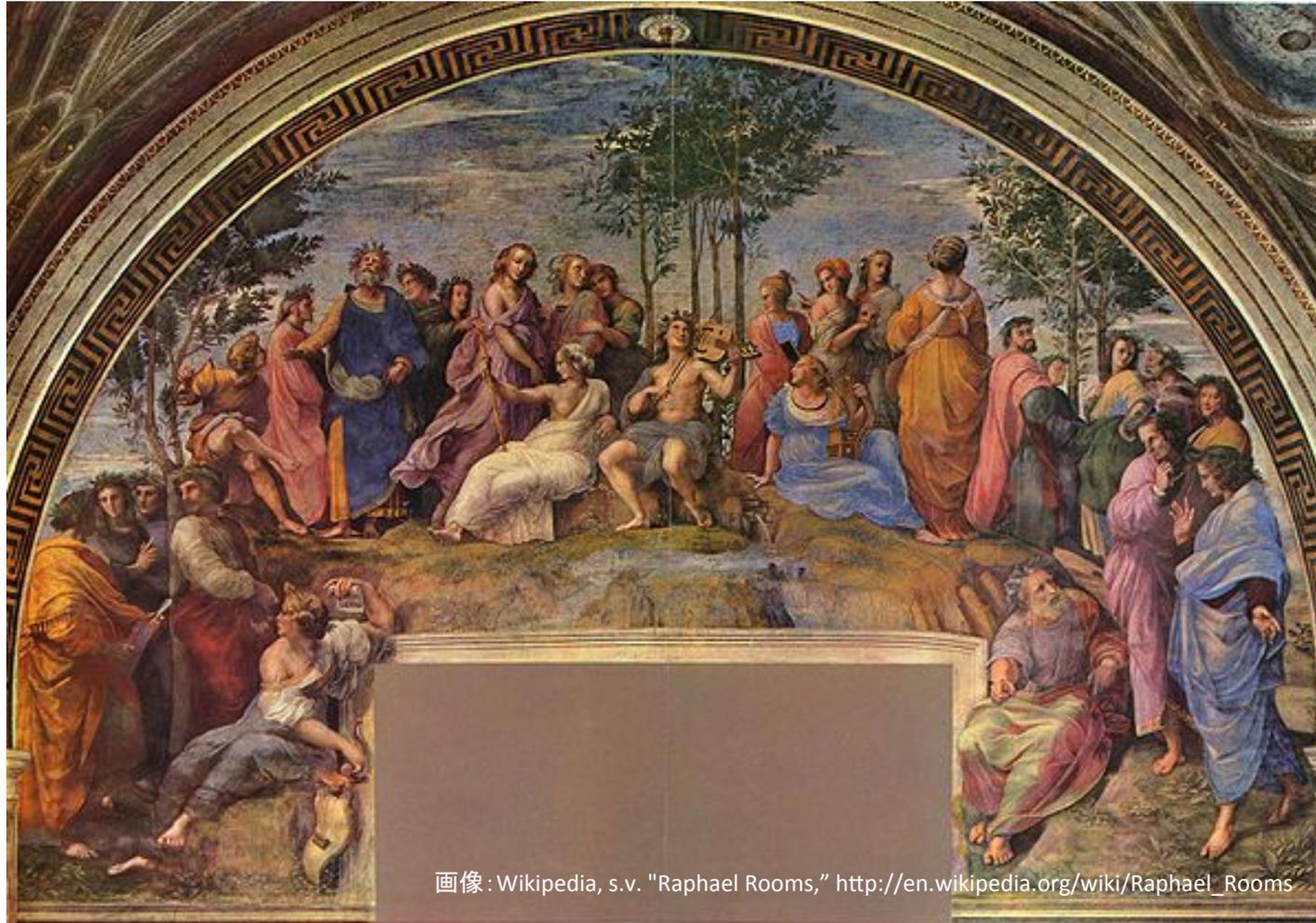
(そのさらなる語源は?)

- ムーサ mousa : ギリシャ神話の9人の女神 (英:muse)
太陽神アポロンと共に「芸術や学問」を司る

[片桐ら 1996: 15]

2. 古代ギリシヤの音楽

(前700年頃～前30年頃)



画像: Wikipedia, s.v. "Raphael Rooms," http://en.wikipedia.org/wiki/Raphael_Rooms

ラファエロ・サンティ 「パルナツス山」 (1501) ヴァチカン宮殿 (=サン・ピエトロ大聖堂に隣接するローマ教皇の住居)

Raffaello Sanzio "The Parnassus" (1501) The Apostolic Palace @Vatican City



画像: Wikipedia, s.v. "Raphael Rooms," http://en.wikipedia.org/wiki/Raphael_Rooms

アポローン apollo : ギリシャ神話の神でオリュンポス十二神の一人。詩、音楽、演劇などの芸術を司る神。また、羊飼いの守護神にして太陽神でもある。アポローンは宇宙を司る神「ゼウス」の子。

ムーサ mousa : 芸術家に靈感(インスピレーション)を与える9人の女神たち。それぞれに以下の芸術分野を司っているという。

カリオペ(叙事詩)、クレイオ(歴史)、メルポネペ(悲劇)、タレイア(喜劇)、エウテルペ(抒情詩)、エラト(独唱歌・恋愛詩)、テルプシコラ(合唱・舞踏)、ウラニア(天文、占星)、ポリュヒュムニア(神をたたえる讃歌・物語)。

※ ちなみに、本学のシンボルである「ニケ」(Nike)は、ギリシャ神話では「勝利を司る女神」とされる存在。

※ この絵では作者 ラファエロ・サンティ自身も描かれている(カメオ出演!?)。



画像: Wikipedia, s.v. "Raphael Rooms," http://en.wikipedia.org/wiki/Raphael_Rooms

バチカン宮殿内のバチカン美術館「署名の間」の北壁と西壁に所蔵されるラファエロのフレスコ画「パルナツソス山」(1501, 左, 北壁)と「アテナイの学堂」(1509, 右, 西壁)

2. 古代ギリシャの音楽

(前700年頃～前30年頃)

ムーシケーとしての「ギリシャ悲劇」

2. 古代ギリシャの音楽

(前700年頃～前30年頃)

ムーシケーとしての「ギリシャ悲劇」

- 「詩・音楽・舞踊」の理想的な融合 → 「総合芸術」
- 前5c. ギリシャの都市アテネで上演
- 仮面をつけた俳優 と 合唱隊(コロス・Choros)
- 舞台を「オルケストラ」という
- 代表作 『オイディプス王』 (ソポクレス作)など
- 西洋音楽史上の重要な転機で常に理想型として参照される
- 特に、バロック・オペラや 楽劇 (R.ヴァーグナー) の理想型

2. 古代ギリシャの音楽

(前700年頃～前30年頃)



「エピダウロス」のテアトロン

画像: http://www.greecebytaxi.com/minibus_full.html

2. 古代ギリシャの音楽 (前700年頃～前30年頃)



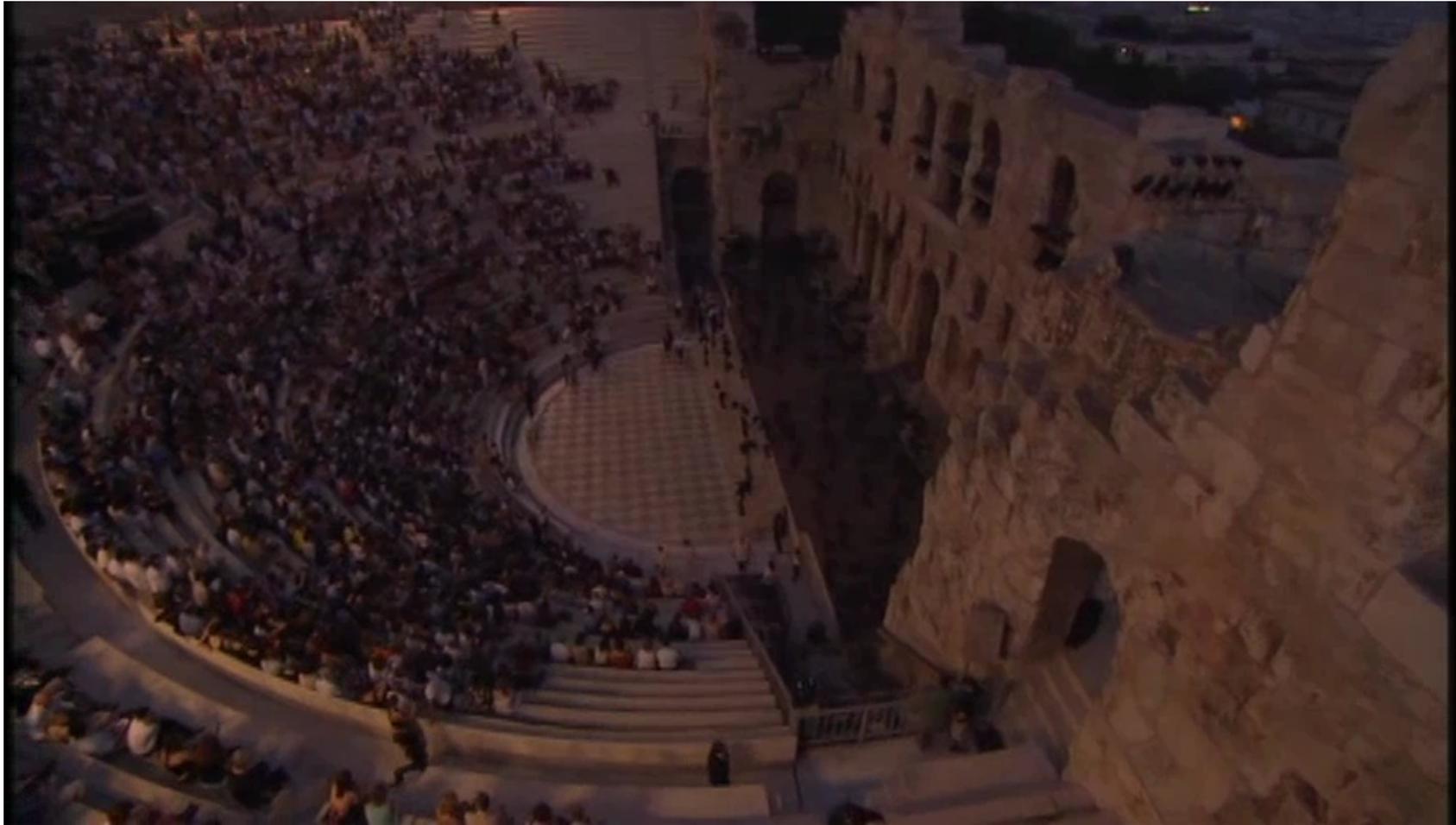
映像：DVD『世界遺産 8 ギリシャ／マルタ』WHD-308、キープ株式会社(輸入発売元)、2006年(発売)。

現在のギリシャ共和国 アテネのアクロポリスの様子 (映像 6分間)

映像：DVD『世界遺産 8 ギリシャ／マルタ』WHD-308、キープ株式会社(輸入発売元)、2006年(発売)。

2. 古代ギリシヤの音楽

(前700年頃～前30年頃)



映像：DVD「オイディプス王」ソポクレス原作(前427頃), 蜷川幸雄演出, ギリシヤ公演 (2004)、発売元:角川エンターテイメント

※ 日本の趣を活かしてに演出されたものと考えられる。上演場所はアテネのアクロポリスにある「ヘロデス・アティコス音楽堂」。

2. 古代ギリシャの音楽

(前700年頃～前30年頃)

ピタゴラス 「天体のハルモニア」としての音楽

2. 古代ギリシャの音楽

(前700年頃～前30年頃)

ピタゴラス 「天体のハルモニア」としての音楽

- 音楽 = 「**宇宙の秩序を示し、調和を象徴するもの**」
- ピタゴラス(前582-前496) - 「万物の根源は数」
- 数が協和音を作り出すことを唱える。
(オクターブ「2:1」、完全5度「3:2」、完全4度「4:3」)
- 音楽の協和音を、宇宙の形成原理までに適応
→ ピタゴラスによる「**天体のハルモニア**」

2. 古代ギリシャの音楽

(前700年頃～前30年頃)

プラトン 「エートス」(理性)としての音楽

2. 古代ギリシャの音楽

(前700年頃～前30年頃)

プラトン 「エートス」(理性)としての音楽

- ・ プラトン(前427-前347) - 音楽におけるピタゴラスの思想を継承
- ・ 音楽を「**魂の調和**」を促すもの → 「**教育**」に取り入れる
- ・ 「**音楽**」(魂・精神の訓練)と「**体育**」(身体の訓練)
- ・ アリストテレス「(音楽は) 徳を形成するための教育手段」
- ・ 音楽は**数(数字)が原因となるもの**であり、数が適切である時、**自然(宇宙)や人間にとって調和をもたらすもの**と認識された

2. 古代ギリシャの音楽

(前700年頃～前30年頃)

つまり、古代ギリシャにおける〈音楽〉とは、

〈表現〉というよりも、むしろ〈学問〉に近かった。

それは、相当に〈数学・物理〉寄りの分野であった。

※このような経緯があり、約1000年後に現れるヨーロッパの大学で〈音楽〉は主要な科目として採用されることになる。

c.f. 本講義資料「講義3：中世の音楽」

2. 古代ギリシャの音楽

(前700年頃～前30年頃)

(ただし、)

「ここで、ひとつ指摘しておきたいことは〔略〕
古代ギリシアの音楽はその後の音楽—中世以降の
ヨーロッパ音楽とは全く異なった構成と論理によっており
古代ギリシアの音楽をもってヨーロッパ音楽の原点と
みなすことはできない」

(しかしながら)

「古代ギリシア音楽のあり様は、音楽芸術のあるべき
『古典』として、その後のヨーロッパ音楽の方向づけの
ための幻の規範の役割を果たしつつづけてきた」

[皆川 1977: 21]

2. 古代ギリシャの音楽

(前700年頃～前30年頃)

代表的な2つの楽器

2. 古代ギリシャの音楽

(前700年頃～前30年頃)



画像: <http://ancientolympics.arts.kuleuven.be/eng/tc015en.html>

Cithara 「キタラ」 豎琴

※ Guitar 「ギター」の語源

2. 古代ギリシャの音楽

(前700年頃～前30年頃)

Aulos 「アウロス」 笛 (二本管)



画像: <http://www.mlahanas.de/Greeks/Music.htm>

2. 古代ギリシャの音楽

(前700年頃～前30年頃)

ところで、

2. 古代ギリシャの音楽

(前700年頃～前30年頃)

古代ギリシャで
実際に奏されていた音楽を
聞くことは出来ないのか？

2. 古代ギリシャの音楽

(前700年頃～前30年頃)

「セイキロスの墓碑銘」

- 世界最古の楽譜 「セイキロスの墓碑銘(ぼひめい)」
- 墓石に「歌詞」と「旋律」が刻まれているものが発掘
- 1882年頃、トルコで鉄道工事中に発見されたという
- 紀元前100年頃に確かに存在した音楽 (人類最古の音楽)

情報ソース

<http://www.hurriyetdailynews.com/aydin-seeks-return-of-old-composition.aspx?pageID=238&nID=12408&NewsCatID=375>

2. 古代ギリシャの音楽

(前700年頃～前30年頃)



古代ギリシャの音楽が記された墓石
「セイキロスの墓碑銘」(B.C.100年頃)

1882年頃、トルコで発掘

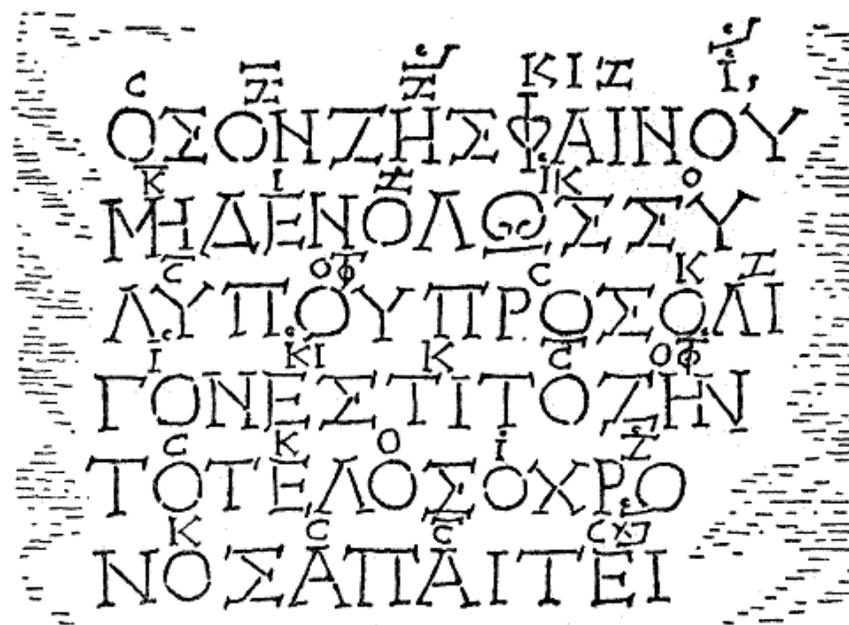


Abb. 15/16. Kopenhagen Inv. Nr. 14897 (= Nr. 18)

2. 古代ギリシャの音楽

(前700年頃～前30年頃)

「生きている間は輝いていてください
思い悩んだり決してしないでください
人生はほんの束の間ですから
そして時間は奪っていくものですから」



試聴：《セイキロスの墓碑銘》（紀元前100年頃に実在した音楽）

CD: 「Musique de la Grece Antique」より「11. Epitaphe De Sekilos」

2. 古代ギリシャの音楽

(前700年頃～前30年頃)

「生きている間は輝いていてください
思い悩んだり決してしないでください
人生はほんの束の間ですから
そして時間は奪っていくものですから」



- *Youtube* での試聴

“Seikilos Epitaph - Song of Seikilos”

<https://www.youtube.com/watch?v=xERitvFYpAk>

(Retrieved 2014-05-29)

3. その後の古代ギリシャ

(400年頃～)

ヨーロッパから一度「忘れさられた」ギリシャ文化

3. その後の古代ギリシャ

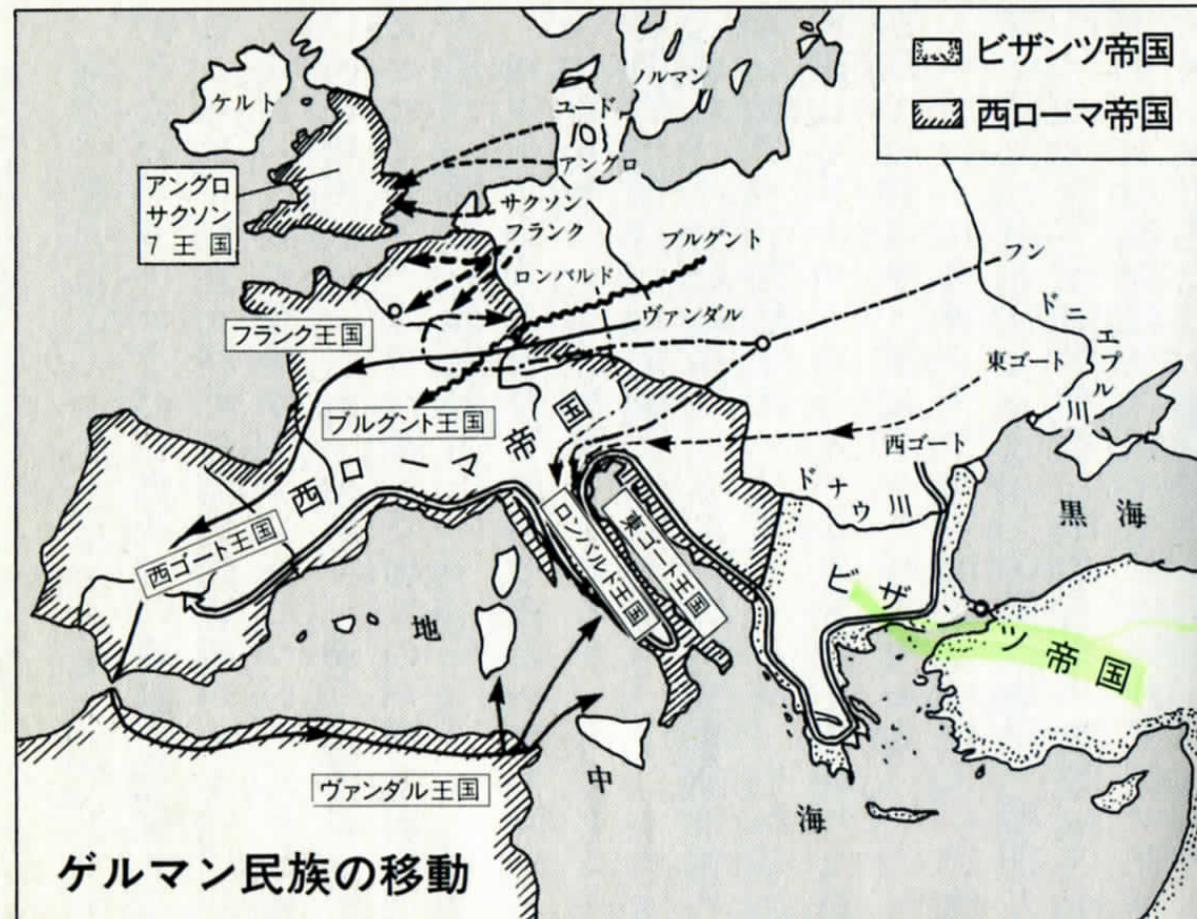
(400年頃～)

ヨーロッパから一度「忘れさられた」ギリシャ文化

- ・ 4世紀頃、「ゲルマン民族の大移動」が起きる(ゴート族など)。5世紀に西ローマ帝国が滅亡し、西欧に進出したゲルマン人は新たな国、フランク王国を興す。ここで、ひとつ歴史の断絶が起きる。この断絶によって、**西欧は、ギリシャ・ローマの古典文明の叡智を忘れてしまった** (プラトンやアリストテレスのこと、など)。
- ・ 更に、7世紀(622)からイスラム帝国が、南ヨーロッパに勢力を広め、**古代ギリシャの叡智がイスラム教徒の手中に留まり**、西欧に伝わらなかった。

3. その後の古代ギリシャ

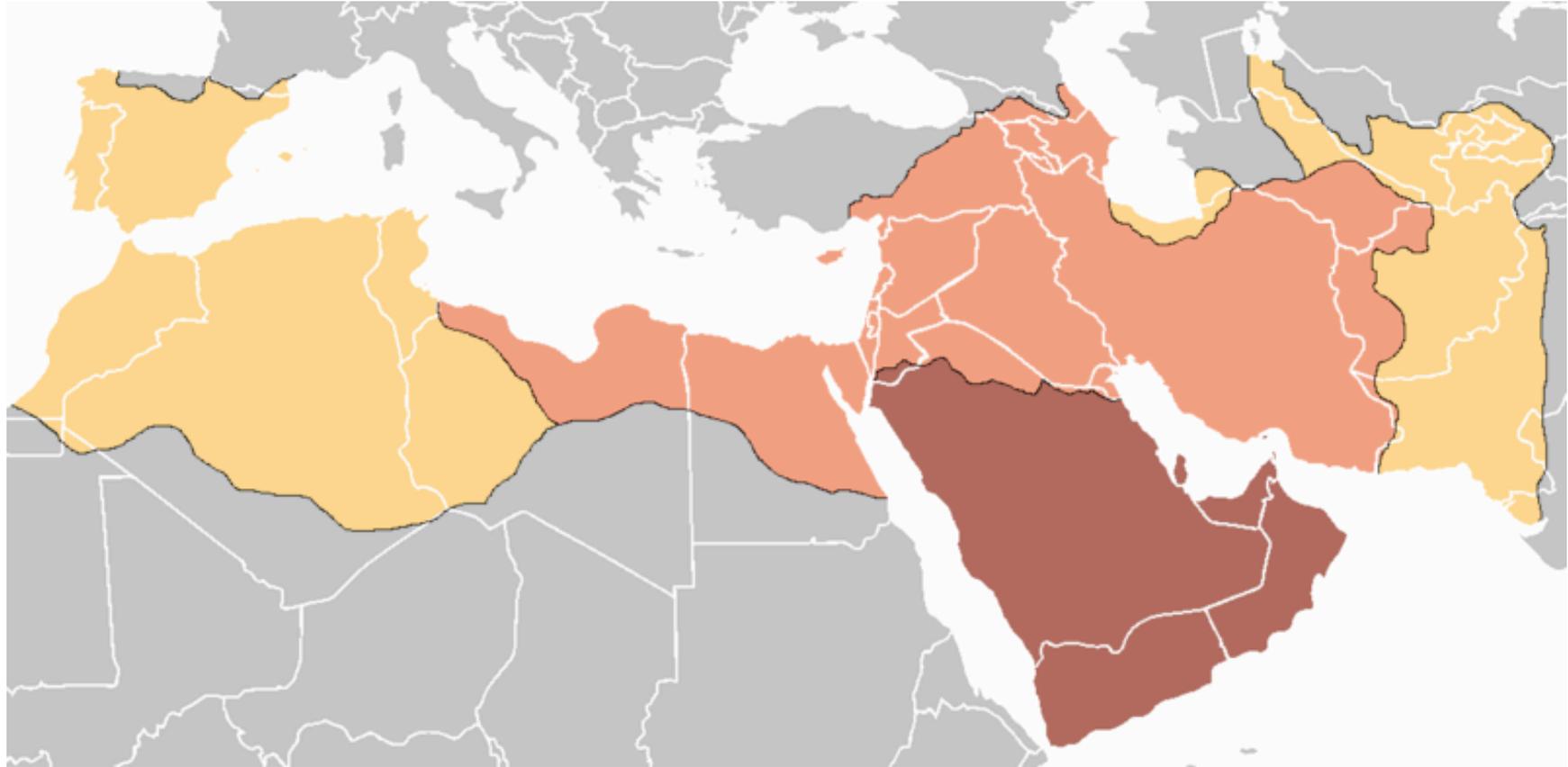
(400年頃～)



図： 水村光男 『この一冊で世界の歴史がわかる』 三笠書房、1996年、67頁。

3. その後の古代ギリシャ

(400年頃～)



8世紀頃の「イスラム帝国」の勢力図（イベリア半島がイスラム化している）

画像：<http://ja.wikipedia.org/wiki/イスラム帝国>

3. その後の古代ギリシャ

(400年頃～)

ヨーロッパから一度「忘れさられた」ギリシャ文化

つまり、4世紀頃からの約1000年間、
西欧はギリシャ文化を忘れてしまっていた。

「12世紀までのヨーロッパ人たちは、
ギリシャ・ローマについては、
ほとんど何もしらなかった」

[村上 2004:38]

3. その後の古代ギリシャ

(400年頃～)

それでは、

3. その後の古代ギリシャ

(400年頃～)

その後、どのような経緯で、
ふたたび
古代ギリシャの知恵が
西欧の芸術等に
生かされるに至ったのか？

3. その後の古代ギリシャ

(400年頃～)

次回、「中世～ルネサンスの音楽」

参考文献

- 岡田暁生 (2005) 『西洋音楽史』 中公新書
- 片桐功 他 (1996) 『はじめての音楽史』 音楽之友社
- 皆川達夫 (1977) 『中世・ルネサンスの音楽』 講談社現代新書
- 村上陽一郎 (2004) 『やりなおし教養講座』 NTT出版
- ドナルド・H・ヴァン・エス (1970=1986) 『西洋音楽史』 新時代社
- 水村光男 (1996) 『この一冊で世界の歴史がわかる』 三笠書房
- 小田部胤久 (2009) 『西洋美学史』 東京大学出版会
- 今井康雄 (編) (2009) 『教育思想史』 有斐閣アルマ